

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 姫神

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム 姫神		
所在地	〒028-4132 盛岡市浪民字駅105		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月20日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で生活をし、日常生活支援をご本人の希望・ニーズに合わせて支援しています。利用者様の尊厳を大切に心から楽しい時間を過ごして頂けるよう、職員は笑顔を忘れずに接していくことを目標にしています。一人一人に合わせた支援を行い「ここにいて楽しい」と思われるような施設になるよう取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新興住宅地の中にあり、近くには市役所支所や消防署等の公共機関、医療機関もある。また大型ショッピングセンターも近傍にあり、コロナ禍以前には利用者と一緒に買い物に出かけることができるなど、恵まれた環境にある。当該事業所は花巻に本社があり、県内に四つの事業所があり、月に1回は各事業所の管理者が集まり情報共有等を図っている。利用者は「ゆっくり、笑顔で、いつまでも」の事業所の理念の下で、それぞれの個性に合わせた役割を持ちながら日常を送っている。事業所の建物の南側には広い畑があり、利用者家族が土を耕してくれ、そこで行う農作業が男性利用者の楽しみとなっている。女性利用者は洗濯たたみや雑巾縫いを楽しむなど、利用者個々に応じた役割を活かしながら生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ職員と管理者が共有することで利用者様がより良い暮らしを継続できるよう努力している。	昨年、管理者が変わったタイミングで理念を見直した。職員会議のなかで職員の皆に「介護とは」と問いかけ、意見等を募った結果、「ゆっくり、笑顔で、いつまでも」を理念とした。朝食の時間を含め、その人に合わせた介護に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため地域と日常的に交流する機会はないが、地域の一員であることを自覚しており今後は積極的に付き合いたい。	コロナ禍にあって、地域との交流を積極的には行っていない。以前は中学校の職場体験や保育園児のお遊戯の披露等もあった。事業所作成の広報誌は地域包括や市役所の支所には配布している。	コロナ禍収束後の地域との交流を進めていくためにも、広報誌を地域に回覧し、事業所の特色等を伝える機会を作り、事業所に対する地域の認知度が上がるよう工夫されることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はコロナ禍のため事業所では行っていないが書面開催を行い、実践の報告や広報等で活動報告をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催を行いご意見があった際には情報を職員間で共有している。またサービスの向上に努めている。	今年度は書面での運営推進会議を2ヵ月毎に開催した。利用者の日常の様子や行事内容等を伝え、各委員から意見を募る形で開催している。事故は発生していないが、今後は「ヒヤリ・ハット」についても報告し、意見をいただいきたいとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連絡を取り、事業所の特色を積極的に発信し良い関係を築いている。	市役所支所の介護保険課と好摩に事務所を置く地域包括支援センターが、連携の相手方になっている。支所とは要介護認定申請時の訪問時に、地域包括とは空床発生時等に連絡調整や相談等を行っている。地域ケア会議はコロナ禍のため開かれていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯のために行っている。基本的な身体拘束はしておらず職員は内部研修で学習している。不明なことや問題が起こりそうな場合は正しく学習するように努めている。	身体拘束廃止の指針を作成し、研修は管理者が資料を作成し年間研修計画の一環として実施している。適正化委員会は、法人の全管理者が集まる会議に併せて開催している。新規採用した職員に対し、スピーチロックの防止について重点的に指導しており、1年前の就任時に比べ、全体に少なくなってきた。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	少なくとも3ヵ月に1回は虐待の勉強会を行い、事業所内での虐待への再認識をすることで注意をしている。また、虐待があることがないように注意をし見過ごさないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会をする機会を持つことはできていないが、研修会等が開催される際には参加していきたいと思っている。必要な時に活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	アセスメントをする際には利用者との関係や、ご家族の不安を話しやすい良い環境を作り、疑問についての説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見の情報を会議で共有し、職員全員で理解をすることで運営に反映するよう持している。	毎月の利用料支払いに来所された際に、家族から意見を伺っているが、意見等ほとんどない。居室担当職員から家族への手紙は、少しお休みしているが、「家族が安心して手に取れる内容の手紙」として再開したいと考えている。利用者からは散歩や作業など、生活の場でのやりたいことについての要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を取り入れ、いい提案や意見を聞き反映させるよう努力している。	毎月の職員会議には遅番以外の職員が参加している。事業所として「働きやすい職場環境」をモットーとし、管理者は職員とのコミュニケーションに努めている。職員からも、洗濯時間を早番から遅番の職員の業務に変更して時間的な余裕を入浴時間に充てるなどの前向きな提案が寄せられ、業務の改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な角度で評価を行い、本人からの希望等は適宜受け入れてもらえる環境だと思う。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ・スキルアップできるよう研修に出席できるような環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流自体はないが、交流する機会があれば事業所の訪問をしサービスの向上にしていければ良いと思っている。同グループ会社での訪問は一部で行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをする時点でしっかりと本人の困っている事、要望等を把握することで早い段階で安心して過ごしていけるような、関係をつくるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんだが家族のアセスメントも重要だと思っており安心してサービスを利用していただけるような関係を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が困っているのか今後はどのようにしたいのか様々な観点から総合的に判断するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生き立ちや性格を把握し立場を多方面から分析し、無理なくゆっくりと共に過ごしていただけるよう個性を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちを大事に尊重・敬いの気持ちを忘れず、家族とともに支えていく関係を持つようにしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、施設での面会はできないが窓越し面会や電話での会話ができるよう支援している。	以前には電話をくれる友人がいる利用者もいたが、時間の経過とともになくなり、家族との関係だけになっている。来訪する家族のそれぞれの事情を尊重しながらも、できるだけ家族との交流を多く持てるような支援の在り方を工夫していきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの性格やレベルを理解し、一人一人が関わりあえるよう会話の橋渡しを行っている。孤立はしないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族をフォローすることもあるが今までの事例はない。問い合わせや要望があれば相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	よく会話を行い、その都度希望があれば把握している。本人ならどうしたいだろうかという気持ちを大事にしている。	利用者全員が自分の意思を口頭で伝えることはできるが、同じ1日の流れの中にあっても「今日は何をしようか」とか「何をしたいかな」と話し掛け、またお天気の話の中から「ドライブに行きたい」との希望を引き出したりし、いつでも本音を話すことができるよう接している。また、利用者は前歴を踏まえた対応をすることで、職員の意図するところに応えてくれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、どのような生活歴なのか理解している。混乱しないよう馴染みのある会話をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆、同じ生活スタイルにするのではなく個々に合わせ無理なく過ごしている。できる・できないの能力を見極めるようにしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と課題を見つけ、どのような過ごし方をしていくのが最善なのか話し合い計画を立てている。担当のアイデアを生かしながら、本人にあった計画にし、変更する事例があればその都度、修正・追加をしている。	入居前に家族・利用者の要望を含めたアセスメントを基にケアプランを作成しているが、暫定的な意味合いが強いため、入居1ヵ月後に利用者の状況等に変化がないか等を確認し見直しを行っている。以降は毎月モニタリングを居室担当者を中心に行い、6ヵ月後に評価を職員全員で行い見直ししている。管理者は次の課題は、今後に関わる提案がモニタリング等を通じ沢山出されるようになることとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へ日中の様子、変化があれば記録を行い、情報を共有している。また、実践にも役立つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議やミーティング等で様々な観点からのニーズを見つけそのニーズを事業所での適応なサービスにできるよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な資源があるということを把握し、安全な暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族に受診対応をして頂くが受診内容の情報は共有し今後ともニーズに合わせた医療を受けられるようにしている。	事業所から少し離れたところで生活していた利用者以外は、入居前からのかかりつけ医を利用している。受診介助は家族が行っているが、その際には事業所内での日常の様子を記載したものを家族に託している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自事業所では看護職がいないため、管理者へ報告し判断している。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携室のソーシャルワーカーと情報交換や相談を行っている;早期に退院でき安心して施設に戻れるよう医療機関へアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院した場合でのケースでは早期に話し合いをし、家族と本人の立場を踏まえ、事業所としての限界等を説明しつつ、理解していただくようにしている。	入居時に、看取りは行っていない旨を家族・利用者に説明し、同意を得ている。自ら移動が出来ない、浴槽の跨ぎが全くできないなどとならない限り、入居の継続は可能と考えている。状態が変化し入院治療が必要で退所になり、入院を経て他施設に移っていった方が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成している。勉強会は定期的にできていない。個別の実践力は身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・避難訓練は年2回開催している。地域の協力体制は今後課題である。	ハザードマップ上は災害の対象地域にはなっておらず、火災と地震(夜間想定)の避難訓練を年に2回実施している。事務室内には非常通報装置があり、職員全員に通報が届き、招集出来るようになっている。また建物からの避難がスムーズにできるようにスロープが完備されている。	避難訓練等は事業所の職員のみで実施しているが、今後は地域住民の協力を得ることや予め避難先の確認を行うなど、より安全に避難できる方法を検討していくことを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し尊厳を大切にするような声掛けをしている。人生の先輩であり常に敬いの心を忘れずに言葉をかけている。	利用者一人一人の個性に合わせた声掛けを心がけている。利用者の前に行き、聞き取り易い声量で話しかけることが利用者への当たり前の対応であり、このグループホームを選んで入居された方に当然になすべきことと考えて接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いを表したりできるように言葉のかけ方や、自己決定・表現をしやすい環境をつくるようにしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位の暮らしを優先し、個人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができる利用者様には衣類を選んで頂く等、言葉をかけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや片付けを一緒に行うことが増えてきている。準備から食事をするという一連の流れを一層確立していきたい。(今後の課題)	予め割り振った勤務表に沿って、その日の夜勤担当職員が前もってその日の献立を考え、それをもとに他の職員が食材の買い物をしている。利用者はそれぞれに役割をもち、男性利用者も一緒になって皮むきや盛り付けを行っている。料理は利用者の食欲が増すように季節にあったものや彩りを工夫している。1月に1回程度利用者と一緒におやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表にて把握し、一人一人の好みに合わせたものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食の食事後、口腔ケアの声掛けを行い実践することで清潔にしている。見守りを行い、ケアが不十分な方には介助するなど個人に合わせている。夜間は義歯の消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で管理をし、パターンを理解し個人に合わせた誘導を行っている。	全員がトイレで排泄している。排泄チェック表や様子・表情を見ながら職員が声掛けを行っている利用者もいる。布パンツの方が2名、リハビリパンツに尿取りパットを使用している方が7名である。夜間もポータブルトイレを使用している1名を除き、トイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を含んだメニューを考案したり、1日に1回はリハビリ体操をするなど、身体を動かせる時間を設けている。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は固定されているがタイミングが合わないときは変更する等、個人に合わせた支援をしている。	週に2回を基本に、午後から1人30分以上をかけて入浴している。利用者は自分で、あるいは見守りで着替えを準備し、着替えを一人で行う利用者もいる。職員は背中など利用者が手の届かない部分の洗身の介助を行っている。職員との会話を楽しみながらの入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休息できるような居室もあり、その時々状況に応じて対応している。夜間もゆっくりと安眠できるように本人に合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との関係を保ち、薬剤情報の理解をし、副作用がないかの確認を行うことに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた活動を行ったり、楽しめるような工夫をしている。嗜好品があれば可能な限りお楽しみ会や、イベントで提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には気分転換でドライブに出かけたり、本人の希望を聞く等支援している。コロナ禍で近くのスーパーへの買い物の支援ができていない。また、家族とのお出かけも困難な状況である。	コロナ禍のため以前よりは外出の機会が少なくなっているものの、玄関脇に長椅子を持ち出して外気浴をしたり、事業所近辺の散歩や季節ごとのドライブに出かけている。また利用者が希望する、自宅訪問や希望された場所にドライブに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自事業所ではご本人に金銭の管理はしてもらっておらず、ご家族に管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて本人が家族に電話することもあり、支援できている。また家族からも電話がかかって交際には対応している。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の部分は特に清潔を心掛けており安全面を大切にしている。利用者様が不快な思いをしないよう快適に過ごせるよう工夫している。ホールにはその季節に合ったものを飾り心地よく過ごせるようにしている。	ホールを取り囲んでいる窓から明るい陽射しが差し込み、食事用テーブル2台とソファが置かれ利用者がゆったりと過ごせるよう工夫されている。ホールの壁には、季節ごとに撮った利用者の写真や作品が飾られている。地元ゆかりの石川啄木の歌が書かれたポストカードが掲示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの自席では気の合う方と会話するスペースや日当たりのいい窓際にいすを置いており、自由に過ごすことができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや持参したいものがあれば持込まれ、落ち着いて過ごせる居室づくりを心掛けている。ご家族の写真を飾ったり、好みの本や雑誌を持ち込んでいる。	居室にはベッドと比較的大きめのチェストが設置されている。利用者によっては衣装ケースがあったり、自分が作成した作品を壁に貼ったり、家族写真を飾ったりして居心地よく過ごせる環境としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中では居室の位置や、座席が分かるように記名をして場所が分かるようにしている。動線は安全が保たれるようにしている。		